

議事録要旨

会議名	第6回芦原温泉駅まちづくりデザイン部会
開催日時	平成28年10月31日(火) 19:30~21:30
開催場所	あわら市役所3階 正庁
出席者 (敬称略)	<p>【部会員(9名)】 福井工業大学/川島洋一(教授)、市民/笹原修之、西田幸男、八木康史、高木めぐみ、あわら市/長谷川義則、中辻雅浩、細川正樹、坂井真生、竹内優美、山本紹央、福井大学/酒野氏</p> <p>【オブザーバー(4名)】 日経BP社/高津、大広/菱田、新島、大広北陸/渡辺</p> <p>【事務局(3名)】 あわら市総務部政策課/小嶋(課長)、山口(課長補佐)赤神(主査)</p>
欠席者 (敬称略)	市民/森嗣一郎
協議事項	デザイナー3組より6枚の芦原温泉駅周辺将来デザイン提示
会議内容 の要旨	<p>(進行)事務局 部長挨拶: 芦原温泉駅周辺将来デザインの発表に期待と不安を抱いているが、今からご提案いただくものを基にまちづくりが進められていくと思うとワクワクする。</p> <p>(進行)オブザーバー 各デザイナーからプロジェクターで絵を見せながらプレゼンテーション。</p> <p>(1)デザイン発表</p> <p><u>有限会社E.N.N.:小津氏</u> エリアを変える(芦原温泉駅前エリアリノベーション) 東口・西口を地表レベルでつなぐ。 ・芦原温泉駅前のエリアからあわら市全域を有機的につなぐ ・市民の都市生活の充実(東口は生活空間を確保し市民の生活拠点を築く。西口は観光客と生活空間の一部に) ・観光客や一時滞在者にあわらの本当の魅力を伝える ・試住や移住へ人口流入をまちぐるみで計画する ・まちの自然と歴史・文化を活かす</p> <p>建物をつかいになす(空き家リノベーション) ・ランドレベル(歩行者レベル)を中心にリノベーションを促す ・統一感ある庇やサイン計画など、緩やかなまちづくりルールを設定する</p>

議事録要旨

・小商いスタートアップ+リノベーション支援の仕組み

地域商店：カフェ、ブルワリー、ワイナリー、スイーツ、ベーカリー

ビジネス拠点：シェアオフィス、まちづくりオフィス

観光拠点：ドミトリーホテル、セレクト工芸ショップ

そぞろ歩きを楽しむ（駅前商店街からはじまる遊歩空間）

- ・そぞろ歩きの魅力を感じられる商店街
 - ・既存建物を再利用リノベーションし、まちのスケール感を崩さない
 - ・陰影ある環境照明、歩道路面の質感向上、街路樹など公共デザインを策定する
 - ・商店街の入口には福井県・北陸のセレクトショップ、カフェ
- 必ずしも福井のものだけでなくもよいと考えている。北陸全体を感じられる店舗とまちづくりのルールを定めて統一感を創りだす。

駅前を楽しむ（あわらにしかない天蓋広場）

- ・日差しや雨・雪から、訪問者をやさしく守る天蓋（キャノピー）
 - ・イベントやマーケット、カフェなど賑わいを包容する広場
 - ・駅の東西に天蓋を設けて、東西イメージを統一し、東西往来を喚起
 - ・駅がローカルネットワークのハブとなり、温泉街、竹田川への出発拠点となる
- 駅舎の存在感を薄める。

自然を使いこなす（竹田川・宮谷川リバーフロント）

- ・竹田川は産業の川として河戸を再生し、ヒト・モノを舟運
- ・竹田川河戸には歩行デッキを構築、週末にはマルシェ（市場）、イベントなどを開催
- ・宮谷川は暮らしの川として癒やしの空間・ピオトープ創出へ
- ・水辺を演出する照明計画

みんなをつなぐ（あわらローカルネットワーク）

- ・竹田川河戸、金津三国線を社会実験を含む段階的再生によってモーダルシフトを実現
- 水上バス：いかだ船 / 観光クルーズ 定期水上バスへ
- LRT：路面バス / 観光バス LRT
- ・あわら湯のまち駅と三国港を二つの移動速度でつなぎ、観光産業と地場産業をネットワーク化する
- ・公共的交通機関にVI（色、ロゴなど）を導入する

芦原温泉駅前の未来をイノベートする3ステップ

1.平成29年から

小商スタートアップ+空き家リノベーション

議事録要旨

ローカルインフラ社会実験（舟運・バス・タクシー）

2.平成 35 年までに

駅前天蓋広場・遊歩空間・生涯活動市民生活拠点の構築

ローカルインフラ始動（水上／陸上バス、タクシー）

3.平成 35 年から

ローカルインフラ発展（LRT）

【質疑応答】

事務局：補足として、駅西口と東口の通路について、中 2 階を通じて通れるようになる。

部会員：天蓋広場が出来ることによって、ロータリーはどうなるのか。

部会員：コンパクトなロータリーを目指していくのがよい。

小津氏：現ロータリーをイベントができる賑わい空間にするという提案。柱をとばしているの
で荷重のかからない素材で考えている。

部会長：天蓋のテント地はバタバタしないのか。

小津氏：細かくレール分けしてしないようにする。

部会員：雪対策は考えているのか。

小津氏：これからの議論になるとは思うが、素材や工夫で対応していく。

名古屋工業大学伊藤氏 + イチノイチアーキテクト石川氏

ワークショップで出た意見や要望を整理し、どうすれば実現できるか、入れ込めるかを考えた。地域の人々に愛される場、特に高齢者や子ども、そして川までつなげる、a キューブも
含め検討した。「耕す」をキーワードに、「みんなで耕す あわらのまち」を提案する。

食を耕す / あわらむすび 魂を込めるとい食べ物。市の木や花をヒントにした、漁師グ
ルメの「すがも」など特長を出して提供する、あわらのまちに広がる「おにぎりスポット」を設置

美を耕す / 温泉×野菜で、ベジタブル足湯を実現。ゆくゆくはお湯に入れる入浴剤を
開発していく。グリーンハウスで珍しい野菜を栽培し、あわら市の名物にしていく。

交通を耕す / まちをゆっくり走り、駅と温泉街をつなぐために乗りものを開発。トラクター
を改造し乗客が乗れる最新の乗りもの「アグリモーター」。日帰り客が多い比率を、宿泊客
を増やしていく。

文化を耕す / 温泉のお座敷文化や競技かるたの文化を耕すために、100 畳座敷を設
置して高齢者から子どもたちまで交流が持てる場所とする。屋根には滝瓦を使用し、本陣
飾りのようなおもてなし建築で空間を作成する。

議事録要旨

職を耕す / 多世代が活躍するまちをつくる。そのために若者が新たに事業を始められる、そして高齢者がいきいきと働き続けられる環境を整える。また、商店街の魅力向上を目指し駅前 100 畳広場と統一感のある演出を。竹田川まで流れるような動線を作り、商店街、a キューブへつなぐ。

スタートアップ企業の誘致 (IT、バイオベンチャー etc...) のため低価格で場貸しし、売り上げの一部を市へ還元する仕組みを作る。

このように、あわらの経済が循環する仕組みをつくり、西口では市民が楽しく活動、観光客にも良く思えるように。東口はホテルやビジネスに役立つ施設を。商業施設は本当に必要か、まち全体が複合施設として成り立つまちなみを作っていきたい。

【質疑応答】

部会員：大きな商業施設は不要との意見に同意。案内所が遠いのは？

伊藤氏：案内所に着くまでに体感できる。次に行きたくなる心理効果を狙う。ヒューマンスケールとして「ゆとり」が感じられるよう。これは事業者同士の争いではない。

部会員：100 畳座敷について、デザイン的にどのようなものか。

伊藤氏：風と光を調整する工夫、まちの縁側スペースとして比較的フラットな屋根に。

部会員：ベジタブル足湯のお湯はどこから持ってくるのか。

伊藤氏：温泉街からの輸送になる。観光客というか、地域住民が楽しむことが大切。

事務局：アグリモーターは最大 30 km の速度しかでないので、他のクルマの邪魔になるかと。

伊藤氏：他の車が、うまくかわして欲しい。専用レーンを作ることは厳しいかと。他のまちには絶対のないものを (北海道では一部あり)。

部会員：100 畳座敷とかるたスペースだが、吹き抜けなので防音できるか。音を大事にする競技なので公式戦は出来ないかも。

伊藤氏：音を大事にするということが分かった。今後対応を検討する。

GENETO : 山中氏

駅はあわら市の玄関としての顔である。「たたら」建築を点在させてはどうか。

・駅前に 5 つのたたらを設置し、花菖蒲ポットや芝生を配し、自転車、スポーツ、ビジネスマンのスポットにしていく。

・駅前商店街は片側一車線にし、芝生を配置。例えば、芝生には学生を対象とした「イスコンテスト」などを開催し、そのベンチを設置する。

・竹田川沿いは花菖蒲フラワーポットのベンチや夏にはダンボートレースのイベントを開催す

議事録要旨

る。

日本全体の人口が減る中で、あわら市の人口も減っている。人口が減っても市民が潤い、観光客が滞在したいまちにしていかななくては、企業は海外設備投資を増額しており、実質企業誘致は難しい。そういった中ではあるが就労者が働く場所と時間を誘致することはできる。働きながら休む健康の聖地「Active Rest」のまちを提案する。日本の就労者数は約 6,500 万人、そのうちデスクワーク就労者数は 3,500 万人。そのうちの 1% がアクティブレスト層で 35 万人。

・その層が家族を連れてくると、35 万人 × @2.49 人 = 871,500 人をターゲットとして捉えることができる。そしてアクティブレストは日帰りや短期滞在の観光客ではなく、中長期滞在の客層が獲得できる。

・あわら市にあって他のまちにはないコンテンツ（自然・歴史・文化）を生かしたまちづくりで、アクティブレストのまちとして魅力を引き出す。

・「たたら」はそういったものの象徴的な建物として機能する。アクティブレストのまちとして点在する「たたら」の維持・運営で生まれる経済活動がある。

・スポーツを取り入れた滞在により、より快適で健康的な観光体験、様々な滞在パターンを提供できます。

・災害時の避難場所として「たたら」の活用を。

・地域ごとの特色を生かした「たたら」の展開を考えている。

田園のたたら、天窓のたたら、崖の横のたたら、東屋のたたら、露天風呂のたたら、木の上のたたら、牧場のたたら、湖畔のたたらなど。その他、たたらちゃんなど、ゆるキャラの展開も。

【質疑応答】

部会員：マニュアル化（パッケージ化）してしまえば、「たたら」はどこでも展開可能かと。

山中氏：そう思う。

部会員：花壇ポットについてですが、花菖蒲は一年のうち、15 日程度しか咲かないので変えた方がよいかと。

山中氏：有力なアドバイスに感謝したい。

部会員：既存の温泉宿だと宿泊料が高いので、オートキャンプたたら場を展開してもよいかも。

部会員：余裕のある人でないと展開が難しい。価格帯でいうと低いところをとる（のがよいのかと）。自転車、旅で少し滞在できるもの。温泉宿との連携も考えられる。これ（たたら）をどこが整備していくか、にもよるのではないかと。

部会員：建築物は、木造平屋、瓦か。災害時を考えると鉄骨がよいかと思う。デザインはウッド調で。

部会長：撤去自転車のレンタル再利用は（行政として）難しく、人から譲ってもらう、人

議事録要旨

から譲ってもらう中古自転車だったら OK か。(駅前通りの)片側一車線についてだが、海外だと車道を歩道に切り替える動きもあり、極力道を減らす展開が見られる。ニシタ前のガソリンスタンド跡をたたら風にしてパーキングにしてはどうか。

部会員：シェアオフィスの設備は？使い方によっては地元でもプリンターや学校の宿題等で活用できる。PCを持っていない人もつかって交流を図る。

部会員：芦原温泉駅前のレトロ空間の取り扱いについて、意向調査をしてはどうだろうか。なるべく早くして土木部サイドと調整した方がよい。

部会員：ブランド専門部会の方で展開されている「都会にはない贅沢があるまち」を踏まえているか。

オブザーバー：都会と同じ風景はなく、時間の使い方が贅沢である、といえる。

安易な誘致でなくてよかった。

オブザーバー：東口については(提案の)余力があるかと思う。

(2) 11/27(日) 市民公開プレゼンテーションについて

日時：平成 28 年 11 月 27 日(日) 14-17 時

場所：あわら市中央公民館 大ホール

正式名称の決定：「芦原温泉駅周辺将来デザイン 市民投票」

デザイン採用の方針：審査員

地域ブランド戦略会議委員 12 名(持ち点 / 25 点)

市民(市外者も可) 来場者数(持ち点 / 5 点)

採用方法：投票上位から 6 案程度採用

西口×2 枚、駅前商店街×1 枚、竹田川×1 枚、フリー×2 枚

実現性・持続発展性・経済性を考慮したうえで投票いただきたい

単なる絵の人気投票に終わらせないよう、市民に分かりやすく、デザイナーの思いを伝え聞いたうえで投票を。

6 案程度というのは、票差が僅差の場合、審査委員会で採用を協議するため。

目標動員数：300 名 事前申し込み無し

構成：20 分発表 + 10 分質疑×3 セット + 前後 10 分

実施時間：14-17 時(予定)

タイムスケジュール

14：00-14：10 オープニング～冒頭主旨説明

14：10-14：40 デザイナー1 プレゼン(発表 20 分+質疑 10 分)

14：45-15：15 デザイナー2 プレゼン(発表 20 分+質疑 10 分)

15：20-15：50 デザイナー3 プレゼン(発表 20 分+質疑 10 分)

15：50-16：15 投票説明～投票、集計

16：15-16：30 採用案決定

16：30-16：45 採用案提出者のコメントおよび審査員コメント

議事録要旨

16：50-17：00 戦略会議（橋本会長）からクロージング挨拶
17：30-19：00 後片付け+会場での懇親会（意見交換会）
投票／パネル下に投票箱を設置、「 」を投票
投票説明はセレモニー冒頭がよい
オープニングは、市長の挨拶にて
投票の方法については、今後要検討
プレゼン発表順はオブザーバーに一任する
その他
当日掲出するパネルサイズは A1 判
MC の手配はどうか
プレゼンで使用した資料は持ち出さない
各エリアの絵についてメモ出来るものを
遅れて参加された方に確認できるもの

事務局：

会場設営やタイムスケジュールについては、今後事務局とオブザーバー側で再検討し、次回部会にて提示する。

部会長挨拶：

11/27 はポテンシャルの高いプレゼンになるように期待している。

新幹線延伸に向けてのまちづくりに対して市民の機運を高める事業なので、お近くの方々に広げていただきたい。

以上